

「第4回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

平成 25 年 1 月

産業日本語研究会世話人会

顧問: 長尾 真 (京都大学名誉教授)

代表: 井佐原 均 (豊橋技術科学大学)

辻井 潤一 (マイクロソフトリサーチアジア研究所)

橋田 浩一 (産業技術総合研究所)

隅田 英一郎 (情報通信研究機構)

横井 俊夫 (日本特許情報機構 特許情報研究所)

潮田 明 (富士通研究所)

松田 成正 (日本特許情報機構)

開催趣旨:

産業日本語活動の新しい展開に向けて

近年、経済や企業活動の急速なグローバル化を背景に、日本を代表するグローバル企業のみならず、中小企業も含めて、国内外を問わない事業展開が不可欠となっています。

また、産業活動の現場に目を向けると、異なる分野の多くの専門家が共同作業する大規模プロジェクト、そして、組織を跨ぐ統合・共通化プロジェクトが利便性の向上や業務効率化を目的として、あらゆる場面で見受けられるようになっていきます。

このような時代背景に基づき、テクニカルライティング、機械翻訳などによる、正確かつ円滑な情報発信力と知的生産性の向上が、これまで以上に強く求められています。

産業日本語研究会は、情報発信力の強化や知的生産性の向上を目的とし、各種活動を行っています。「産業日本語」とは、情報を正確に伝達できるような情報発信力の強化、そして、コンピュータ処理されやすいような知的生産性の向上に資する産業や科学技術の記述に用いられるべき、日本語の枠組みです。

「産業日本語研究会・シンポジウム」は、これまで3回にわたり開催し、産業分野・科学技術分野における情報発信力や知的生産性の向上に貢献するとともに、わが国産業界全体の国際競争力の強化に資するような日本語の枠組みのあり方について総合的な議論を行いました。

4回目となる本シンポジウムでは、産業日本語活動の報告を行うとともに、文書を客観的に分かり易くするための他分野での取り組み、例えば、テクニカルコミュニケーションやシステム・ソフトウェアの開発文書ライティング等の各種取り組みのご紹介も交えながら、執筆・利用・翻訳など、それぞれの立場で日本語文書に関わりを持つ方々が一堂に会し、前述の時代背景をもとに、産業日本語活動の新しい展開のきっかけとなる場にしたいと考えております。

また、前回に引き続き、関連技術デモ展示に触れていただき、産業日本語を実感していただくことも予定しております。皆さまのご参加をお願いいたします。

事務局担当: 高度言語情報融合フォーラム(ALAGIN) 事務局